

歌人・馬場あき子さん

小野とは心がつながっている

短歌フォーラムの選者を20年

小野市短歌フォーラムの選者を約20年間務め、文化の継承や向上に貢献した功績で、小野市は日本の代表的歌人、馬場あき子さん(95)に川崎市に名誉市民の称号を贈った。6月3日に小野市であった同フォーラムで授与する予定だったが、前日の台風による新幹線運休で馬場さんは来られない事態になった。蓬萊務市長に代わり、橋本浩明教育長らが8月9日、自宅を訪れ、手渡した。(坂本 勝)



橋本浩明教育長(左)から名誉市民称号の記を贈られた馬場あき子さん(川崎市、馬場さんの自宅)



映画「幾春かけて老いゆかん 歌人馬場あき子の日々」のチラシ

名誉市民の称号受け取る

「名誉市民の称号を贈ります」などとした文章に、6月3日の日付と市長の名前が記された「称号の記」。宮中歌会始の選者に選ばれながら辞退した経験がある馬場さんは「称号を受けるのは本当は好きじゃない」と言いながら「小野市とは心がつながっている」として橋本教育長から受け取り、笑顔を見せた。

馬場さんは1928年、東京都生まれ。日本女子専門学校(現・昭和女子大)を卒業し、78年に歌誌「かりん」を創刊した。朝日歌壇選者で日本芸術院会員。小野市出身の歌人、上田三四二とも親交があり、89年に亡くなった三四二の通夜では、三四二の短歌100首を朗読した。

同市の名誉市民は藤原雄次氏(初代市長)▽井上増吉氏(4代市長)▽一柳末幸氏(小野藩一柳家12代当主)に次ぎ4人目。

小野市西本町の好古館柳風園には、記念事業として馬場さんの代表歌「さくら花幾春かけて老いゆかん身に水流の音ひびくなり」の歌碑が、三四二の代表歌「ちる花は数かぎりなしことごとくCをひきて谷にゆくかも」の歌碑の隣に建立された。

9面編集委員インタビューで馬場あき子さん

【馬場さんの作品】

つばくらめ空飛びわれは水泳ぐ一つ夕焼けの色に染まりて
シーラカンスの憤怒することもあらざるや A に飼ひて折々に見る
夜蟬一つ B と鳴いて落ちゆきし奈落の深さわが庭にあり
父病めば人遠きかな夏深く終わるもの一つ一つたしかむ
都市はもう混沌として人間はみそらーめんのやうなかなしみ

馬場あき子さんは現在95歳。現役の歌人、評論家、能作家です。今年の5月にはドキュメンタリー映画が公開されました。右の記事を読んで次の問いに答えましょう。

1 短歌の空欄に言葉を入れましょう。Aはカタカナ3文字 Bはセミの鳴き声、ひらがな3文字 Cは漢字1文字。

2 馬場あき子さんの評論を次の中から1つ選んで記号で書きましよう。

- ア「無常といふ事」
- イ「陰影礼賛」
- ウ「文学の仕事」
- エ「鬼の研究」

1	A				
2	B				
C					

* 解答は次ページ

NI Eワークシート中～高校

NIEワークシートのこたえ（2023年8月28日公開）

◆ワークシート「歌人 馬場あき子(短歌)」
2023.8.27付 朝刊 日特 三木北播 オピニオン 解答

1 A スマホ B じじつ C 光

2 I